西部３圏域合同事業「つないで　支える　認知症 in いわみ」（平成３０年１０月１８日開催）
グループワーク記録（主な意見を抜粋）　テーマ：「自分の立場でこれからできること」

〇認知症予防・早期の関わり
・予防が大事。サロン等での交流や、色々な活動が予防に繋がる。交流の場を作ることが必要。
・介護認定を受けていない方がデイサービス等を利用されることで、認知症予防に繋がると思う。
・サロンで気になる方に対して、早期に訪問するなどのアプローチをしていくことが必要。
・早期の介入を意識し、疾患医療センター紹介のハードルを下げる取組が必要。

〇医療機能分化・連携
・モデル地区の設定、初期の対応が出来る地域の体制を作る。
・地域のネットワークづくり。疾患医療センター、初期集中支援チーム等と連携して進める。
・かかりつけ医の役割が重要。かかりつけ医がいると、相談しやすい。

〇多職種連携
・薬だけではよくならない。対応することの出来る人に繋げる。
・地域包括支援センター等、様々な機関に繋いで行くことが必要。
・医療以外の機関が、どのような取組をしているのかを知りたい。
・歯科として、認知症患者の情報を把握できれば。介護者と歯科との連携が必要。
・地域を巻き込んでいく必要がある。介護保険サービスだけでは支えきれない。

〇情報共有
・病院と市町村の間で、気になる方についての情報共有が必要。
・ケア会議で、個別課題や地域課題を共有する。
・徘徊等がある場合は、地域の方々とも情報共有することが必要。通報システム等の活用も。

〇生活の視点
・疾患ばかりに目を向けず、生活へも目を向けていきたい。
・自宅生活が見えないと、退院後について考えられない。退院後、病棟看護師が自宅に行く等の取組も必要。
・施設に入所すると、今までの地域での生活と切り離される印象がある。施設に入所するまでの生活も踏まえたケアをしていくことが求められる。

〇家族の負担軽減
・認知症患者さんの家族の介護負担をサポートしていきたい。家族を支援しないと、システムが動かなくなる。
・民生委員、地域住民等、周辺の方のサポートが必要になってくる。
・家族に対し、普段の生活に関する助言ができるのでは。

〇研修
・多職種の資質向上のための研修が必要。
・民生委員、町内会長、町内の方々等に、サポーター養成講座を受けてもらいたい。
・講習会で認知症について VR 体験出来れば実感できる。

〇住民啓発
・人と関わることができる機会や交流の場を増やす。
・カフェ等の集いを紹介し、何でも相談することや、お話をすることができることを知ってもらう。
・近所に MCI の方がいらっしゃる場合など、民生委員の方にもっと理解して頂ければ。
・民生委員、近所の方、家族等に状況を発信し、みんなで見守る体制にしたい。

〇施策化
・相談症例から見えてきた課題について、具体的な施策やサービスに繋げることが必要。